

河口湿地の環境形成速度及び物質動態に関する基礎的研究

(研究期間：平成 12 年～ 13 年)

任期付研究員：横山 勝英 (国土交通省国土技術政策総合研究所)

総 評 (一定の成果が得られた研究である)

本研究は、洪水時に上流域から供給される土砂量の観測、洪水前後の河口域の地形測量による土砂の堆積量の評価、日周期の潮汐による土砂流動量の観測という3つの主要な調査を通じて、河口湿地の環境形成速度と物質動態の関係を明らかにすることを目的とするものである。なお、任期付研究員は、河口における水採取のモニタリングを行うなど、現地観測を中心に研究に参画している。

本研究を通じて、河道に堆積する土砂は洪水時に流送される土砂が主要であるものの、潮汐により流送される土砂量も無視できないことが明らかになるなど、ほぼ順調に研究が進められている。また、ドップラー流動計を横向きに使用するという発想や、河口での粒状物の高時間分解機能のモニタリングという重要なテーマに対して正面からアプローチして、一定の成果を得たことは評価できる。しかし、河口湿地の環境形成に対して、洪水時と平常時の物質動態の役割を解明する戦略が弱い面もあり、研究目標の設定については、研究所としての目標と任期付研究員個人の寄与を分けて明確に設定すべきであったと考えられる。

他方、任期付研究員の活用効果については、本任期付研究員は、採用当時、現地でダム観測を行っていたこともあり、本研究の推進に当たり重要な役割を果たすことができ、また、多数の論文を発表するなど積極的な情報発信を行ったことが学会等でも注目を集めるなど、活用効果は十分にあったものと考えられる。また、任期付研究員が研究に専念できるよう、観測に必要な装置を研究室から提供するとともに、事務負担の軽減を図るなど、研究所の任期付研究員に対する支援も十分に行われている。

以上により、本研究は、総合的に一定の成果が得られた研究であったと評価できる。

< 総合評価： b >

評価結果

総合	1.目標達成度	2.目標設定	3.研究成果			4.任期制	
			1.科学価値	2.科学的波及効果	3.情報発信	1.活用効果	2.機関支援
b	b	b	b	b	a	a	a